

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成24年度病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（www.jpnpn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 注意報第1号

- 1 農作物名 サトウキビ
2 害虫名 イネヨトウ
3 発生地域 奄美地域
4 発生量 多

5 発生状況及び注意報発令の根拠

- (1) 奄美地域の巡回調査では、イネヨトウ等の被害発生ほ場率は76%（前年：42%，平年：67%）であり、発生程度「中」以上のほ場率は34%（前年：13%，平年：23%）と平年の約1.5倍であった。特に、沖永良部島では100%，与論島では80%であった（第1表）。
- (2) 性フェロモントラップにおける誘殺消長では、島別に差があるものの、3月下旬から4月上旬がピークとなっており、今後、その時期の成虫により産卵され、孵化した幼虫の食害が懸念される（第1図）。

6 発生生態及び被害

- (1) 奄美地域では年4～5回発生し、春～秋季の1世代期間は40～50日である。
- (2) 卵は葉鞘の内側に20～50個の卵塊で産みつけられ、孵化した幼虫は集団で葉鞘の内側を食害する。中齢以降になると他の茎に食入し、茎内部を数節にわたって暴食する。
- (3) サトウキビの生育初期に加害されると芯枯れを起こす。また、初期被害は、ほ場周縁部で多く見られ、その後、ほ場内でスポット状または畝に沿って被害が拡大する。

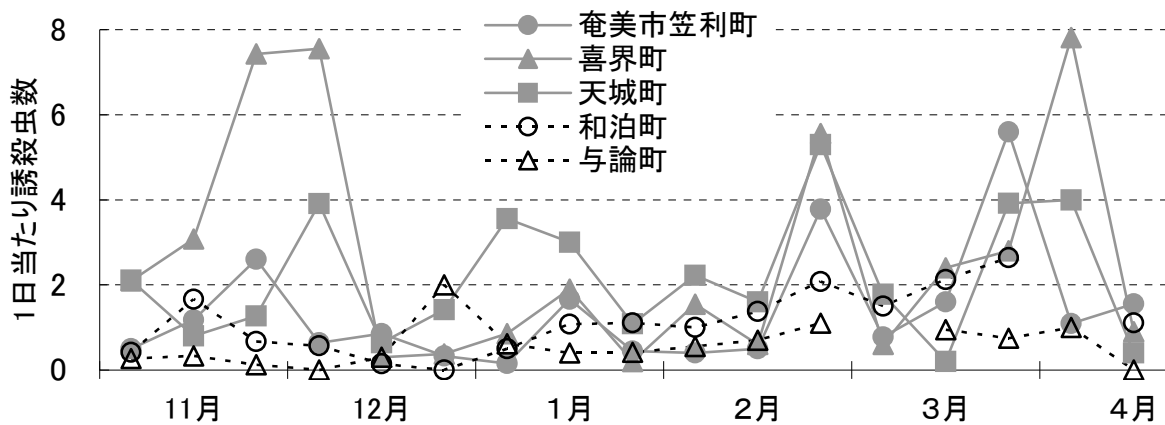
7 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場内及び周辺の除草を徹底する。
- (2) 粒剤の場合、株出及び春植栽培では中耕・培土時に、夏植栽培では最終培土時に処理し、土壌とよく混和させ、効果を安定させる。
- (3) スミチオン乳剤の場合、葉鞘内に十分薬液が浸透するように丁寧に散布する。なお、1週間おきに2～3回散布することで防除効果が高まる。
- (4) 農薬の使用に当たっては、表示ラベルを確認の上、使用基準を遵守するとともに、飛散防止に十分注意する。

第1表 イネヨトウ等の被害発生ほ場率（株出及び春植栽培）

		調査ほ場数	発生ほ場率 (%)	発生程度別ほ場率 (%)				
				甚	多	中	少	無
奄美大島	H24.4月	30	73	0	3	20	50	27
	H23.4月		40	0	0	13	27	60
喜界島	H24.4月	5	40	0	0	0	40	60
	H23.4月		40	0	0	0	40	60
徳之島	H24.4月	5	80	0	0	20	60	20
	H23.4月							
沖永良部島	H24.4月	5	100	0	40	60	0	0
	H23.4月		80	0	0	20	60	20
与論島	H24.4月	5	100	0	40	40	20	0
	H23.4月		60	0	0	20	40	40
地域全体	H24.4月	50	76	0	10	24	42	24
	H23.4月		42	0	0	13	29	58
	平年		67	1	3	19	44	33

注) 発生程度（被害茎率） 甚：21%以上，多：11～20%，中：6～10%，少：1～5%



第1図 性フェロモントラップによるイネヨトウ誘殺虫数の推移



写真1 イネヨトウ幼虫



写真2 ほ場周縁部で畝に沿って芯枯れ被害を受けているほ場（4月17日，天城町）